

国立国語研究所学術情報リポジトリ

国語研の窓 第7号 (2001年4月1日発行)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001954

国語研の窓

7号

平成13年4月1日 第7号 発行 独立行政法人国立国語研究所
Independent Administrative Institution: The National Institute for Japanese Language

編集 国立国語研究所広報委員会
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
電話 03-3900-3111 FAX 03-3906-3530
URL <http://www.kokken.go.jp/>



もくじ

- 暮らしに生きることば 1
- 研究室から 「全国方言談話資料データベース」の作成と研究 2
- 解説 国語審議会が答申した「表外漢字字体表」について 4
- ことば・社会・世界 世界の言語研究所 5
- ことばQ&A 6
- 情報
 - ・開催記録 6
 - ・新刊書目 7
- 独立行政法人 国立国語研究所の出發 7
- ことばフォーラム案内 8

暮らしに 生きる ことば

いっぴつけいじょう ひ ようじん せん な うまこ
「一筆啓上、火の用心、お仙泣かすな、馬肥やせ」

これは、徳川家康の家臣・本多作左衛門重次(1529～96)が陣中から妻に送った手紙で、簡潔な名文とされています。

この手紙にある「一筆啓上」とは、男性の手紙の冒頭を書く言葉(頭語)で、現在の「拝啓」にあたります。中世後期から使われ、多く「一筆啓上奉り候」「一筆啓上仕り候」などと書かれますが、江戸時代の手紙作法書『書札調法記』(1695)によると、相手との上下関係によって、これらを使い分けていたようです。なかでも「一筆啓上奉り候」がもっとも敬意が高いとされていました。また、目上の人には、楷書に近い書体で書き、目下には、行書や草書などのくずした書体を使うというように、書体も使い分けられていました。古くは、手紙の言葉について、かなり細かなきまりのあっ

たことが分かります。

「一筆啓上」は、夏目漱石の書簡にも見られますが、明治時代後期には、次第に用いられなくなり、代わって、現在もっとも一般的な「拝啓」が手紙の頭語として定着しました。現在では、手紙で「一筆啓上」を目にするのは、ほとんどありません。

しかし、本多作左衛門重次の居城であった丸岡城のある福井県丸岡町では、1993年から日本一短い心のもった手紙文のコンクール「一筆啓上賞」が開かれ、入選作が本にまとめられて、話題にもなりました。「一筆啓上」は、二字の漢語で簡潔な「拝啓」よりも、心のもった、温かさを感じさせてくれる手紙の言葉として、今日まで受けつがれてきたのです。これには、本多作左衛門重次の名文が一役買っているでしょう。

このように、使われなくなった言葉が文化的な遺産として、ひとびとに愛され、継承されていくこともあるのです。
(小椋秀樹)

「全国方言談話資料データベース」の作成と研究

日本各地の方言が急速に変化し失われていく現在では、伝統的な方言の実態を記録し、後世のために資料として残すことが、緊急かつ重要なことだと考えられるようになりました。こういう状況の中、1977年度から1985年度にかけて、文化庁が実施した「各地方言収集緊急調査」報告資料が見直されています。この事業によって残された大量の録音テープや文字起こし原稿は、伝統的な方言の自然な話しことばを明らかにできるたいへん貴重なものです。

ここでは、この資料の内容を一部ご紹介し、それに関連して方言の使われ方の変化なども見ていただこうと思います。

みなさんは、「きのうは役場に行かなかった」と言うとき、「行かなかった」のところをどのように言いますか。右の地図は、日本各地の老年層に、「行かなかった」にあたる、打消の過去形をたずねた結果です。

注目すべきは、「イカナンダ」などの-ナンダ類(赤い記号)です。-ナンダは室町時代に現れ、近世後期には-ナカッタのほうが勢力が強かったようですが、明治まで中央(京都)語として使われました。その領域は京都を中心とした半径300kmの円の中にほぼおさまっています。

では、-ナンダは、実際の会話ではどのように使われているのでしょうか。京都と大阪での60歳以上の人々の自然な話しことばをあげてみます。上段の片仮名表記は方言音声を文字にしたもの、下段の漢字仮名まじり表記はその標準語訳です。

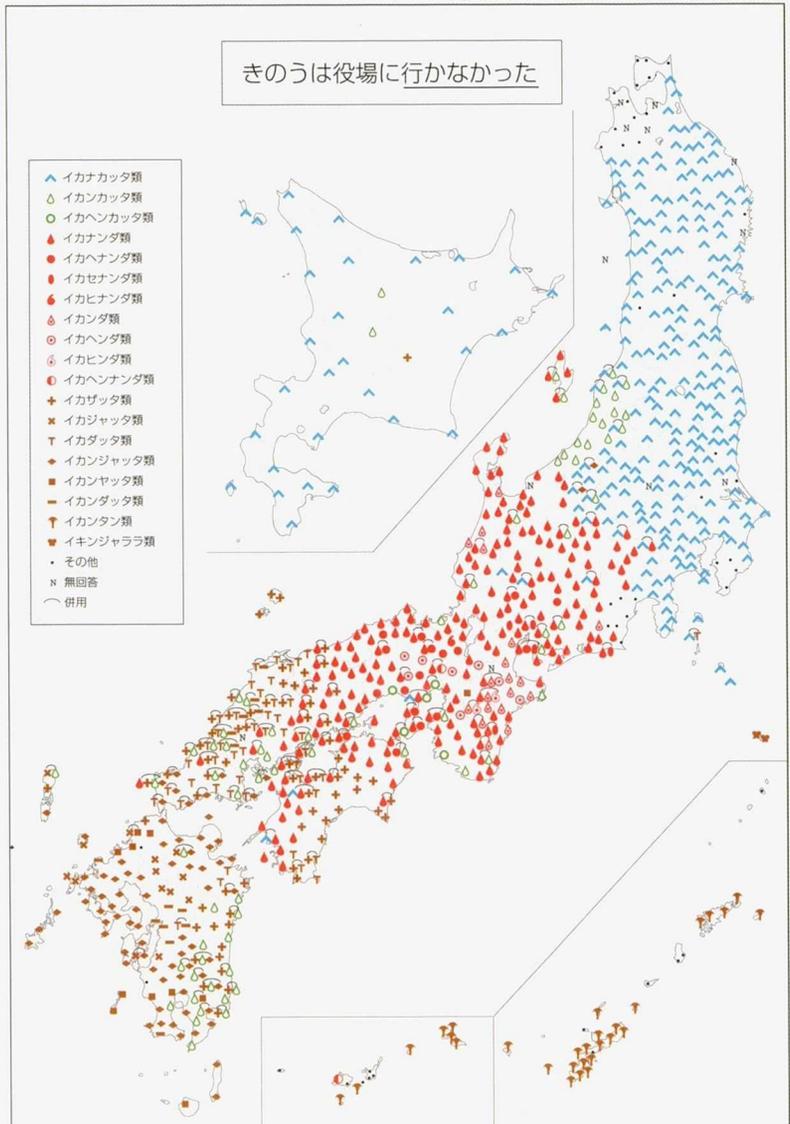
談話Aは京都での-ナンダの例です。もともと打消の-の過去形は-ナンダで、打消の-ヘンの過去形は-ヘナンダでしたが、打消を強調する意識が働いて-ヘンナンダという形が作られました。

談話A 京都 老年層

☆ソノトキ ハジメテネ ワタシネー
その時 初めてね 私ね
ワタリノハヤシチューノオ キイタンデス。
「渡りの囃子」というのを 聞いたのです。
ソレマデ ソンナネー コトバ シラナンダ。
それまで そんなね 言葉を 知らなかった。
☆チョットモ ウレヘンナンダラ コーテ モライマス。
少しも 売れなかったら 買って もらいます。

なお、京都では、-ナンダの他に同じくらい-カッタも使われています。

【方言文法全国地図】第4集第151図により略図作成



☆ボクワ フシギニ ソノ タコ アゲーターリネー
 僕は 不思議に その 尻を 揚げたりね
 コマオ マワシタリワ センカッタナー。
 独楽を 回したりは しなかったな。

談話Bは、大阪での-ナンダの例です。大阪では-ナンダだけが使われ、-カッタはまったく現れませんでした。この点に関する限り、京都より古い姿を残していると言えそうです。

談話B 大阪 老年層

☆ソレデモ アノー ワタシラ チーサイ ジブンニワ
 それでも あの 私達は 小さい 時分には
 ヤッパリ アサー オムシノ オツユナンテ
 やはり 朝は お味噌の おつゆなんかは
 セーヘナンダデンナー。
 しませんでしたね。
 ☆ソーデンナー。 ワタシノ ハハナンカ
 そうですね。 私の 母なんか
 ハントシニ ゲタ ハカナンダユー
 半年 下駄を はななかったという
 トキ アリマシタデスワ。
 時が ありました。
 ☆ソラ オマヘナンダ。
 それは ありませんでした。

若い人達の会話では、打消の過去形がどのようになっているのか比べてみましょう(真田信治・井上文子・高木千恵(1999)『関西・若年層における談話データ集』科学研究費成果報告書)。

若年層では、談話aの京都でも談話bの大阪でも、

-ンカッタ、-ヘンカッタのように-カッタだけが使われていて、-ナンダはまったく現れません。

談話a 京都 若年層

☆ソレダケワ クワンカッタ。
 それだけは 食わなかった。
 ☆オレ ケッキョク イチネンカン
 俺は 結局 一年間
 ノラヘンカッタケドナー。
 乗らなかったけどな。

談話b 大阪 若年層

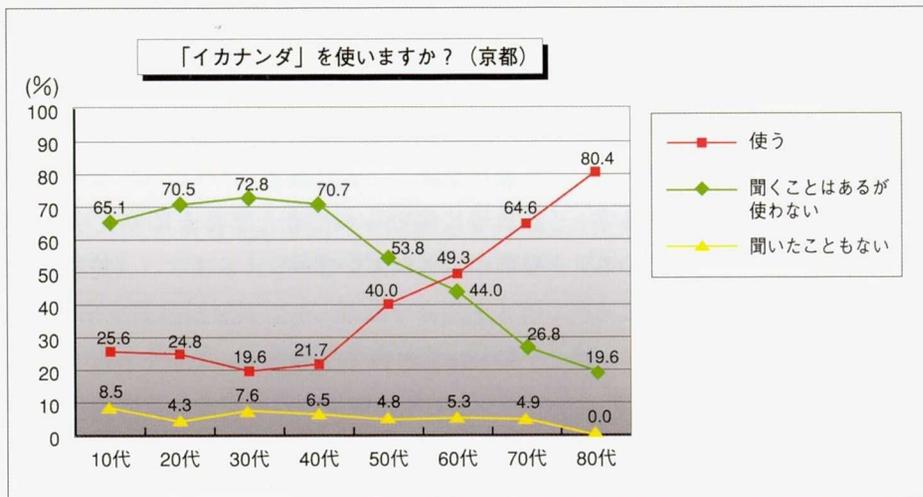
☆イヤ オレ オランカッタ。
 いや 俺は いなかった。
 ☆アノ カミガタ セーヘンカッタ
 あの 髪型に しなかったら
 ピッチンヤデ。
 ピッチン [たたかれること] だよ。

年代別に見ると、-ナンダの使用率は下の図のようになっています。老年層と若年層の間で大きな変化が起きていることがわかります。伝統的な-ナンダが急激に消えているのです。

私たちは、現在、談話A・Bであげたような資料を有効に活用するために、「全国方言談話資料データベース」を作成し、共同利用のできる大規模な言語データとして公開することを目指しています。伝統的方言の最後の姿が映されているこの資料をもとにして、方言の体系や運用の実態に迫ることができればと考えています。

みなさんにも、できるだけ多くの方々にこのデータを使っていただき、ご自分の使っていることについて考えたり調べたりするきっかけにしてください。とてもうれしく思います。

(井上文子)



岸江信介・井上文子(1997)『地域語資料3京都市方言の動態』近畿方言研究会により作図

戦後間もない1946年に、一般の社会生活において現代の国語を書き表す漢字の範囲を示すために「当用漢字表」が制定され、漢字は「当用漢字表」に載っている1850字を使用するという意識が一般に強くなったといわれています。それに代わって1981年に公布された「常用漢字表」には、漢字が1945字掲載されており、これを「常用漢字」「表内字」と呼ぶことがあります。その「常用漢字表」に含まれていない漢字を、「常用漢字表外字」、略して「表外字」または「表外漢字」と呼びます。「誰」「頃」「迄」「岡」「藤」「弘」などがその例です。

「常用漢字表」は、「当用漢字表」でいう漢字の「範囲」ではなく、「目安」を示したものであるために、表外漢字の使用が増える傾向が生まれたといわれています。さらにそれと前後して、日本語ワープロに代表される電子機器において「仮名漢字変換」などの方法で、表外漢字も比較的簡単に入力できるようになってきました。電子機器で一般に用いることができる漢字として、JIS規格（漢字コード）は第1水準・第2水準合わせて6300字余りを定めており、そのうち4300字以上が表外漢字です。

こうした表外漢字には、同じ字に複数の字体が使われているケースがあり、それを調整するために、第22期の国語審議会は、「表外漢字字体表」（2000年12月）を答申しました。これは、活字設計の歴史的な実態や、書籍・雑誌・新聞に対する使用頻度調査に基づき、1022字の表外漢字を選び、それらに「印刷標準字体」を示すとともに、そのうち22字に対して、使用しても基本的には支障ないとする「簡易慣用字体」などを付記したものです。

現行のJIS規格には、従来の漢和辞典、国語辞典や一般書籍、教科書などで多く印刷されている字体（康熙字典体とも呼ばれます）と異なっている字体があります。「常用漢字表」の新字体、たとえば「麥→麦」、「讀→読」を応用して、次のように一部の表外漢字の字体を簡略化して示しています。

「麵」→「麺」 「瀆」→「澆」

これらの略字は、手書きの場合のほか、一部の新聞や出版物でも活字として使われていました。

今回の表では、上記の「麵：麺」は前者が印刷標準字体、後者が簡易慣用字体となり、「瀆：澆」は前者が印刷標準字体となりましたが、後者は簡易慣用字体とはなりません。印刷標準字体は、一般的な漢和辞典に見出し字として示されているものとほぼ一致しますが、「人名用漢字」や「草冠」をもつ漢字の草冠、「餅（餅）」（餅）「讚（讚）」（兔）（兔）のように、実際の使用実態を優先させたものもあります。また、「しんよう・示偏・食偏」の3部首については、既存のいわゆる新字体を許容していますので、印刷標準字体となった「禱」を例にとると、JIS漢字の「禱」が簡易慣用字体、新聞に見られる「禱」が許容となります。

「表外漢字字体表」の一部

NO.	音訓	印刷標準	簡易慣用	備考
181	ギ	妓		
182	ギ	祇		3部首
183	ギ	魏		
184	ギ	蟻		
185	キク	掬		
186	キク	麴	麴	
187	キツ	吃		
188	キツ	吃		
189	キツ	拈		
190	ギヤク	譴		
191	キュウ	仇		
192	キュウ	臼		
193	キュウ	汲		*

なお、この表は、手書き文字や各種専門分野、個々人、従来の文献、現行の固有名詞の漢字には適用されないものと述べていますが、漢字コードや各種の基準等の改訂に言及しています。

表には、通し番号、音ないし訓、印刷標準字体、簡易慣用字体、備考の5つの欄が設けられています。備考欄には、先に触れた3部首に関する許容、細かいデザインの差の存在などが注記されています。使用頻度が低いなどの理由により、この表に載らなかった表外漢字については、従来、漢和辞典等に掲げられてきた字体を印刷文字とする原則が示されています。（笹原宏之）

なお、「表外漢字字体表」は文部科学省のホームページに、国語審議会の答申として掲載されています。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/

国立国語研究所は、「国語及び国民の言語生活に関する科学的調査研究を行い、あわせて国語の合理化の確実な基礎を築くための事業を行う機関」として、1948年に設立されました。簡単に言えば、次の三つが国立国語研究所の活動の柱だということです。

- ① 日本語がどのような言語であるかを科学的に解明する。
- ② 日本国内の言語事情を客観的に把握する。
- ③ これら二つの作業を基礎に、国内における言語的異質性による混乱を克服するための「言語の標準化」のあり方について考える。

世界には、国立国語研究所と同様、ことばに関する調査研究を行う公的な研究機関が数多くありますが、その多くが上の三つの事柄——「言語そのものの研究」「言語事情の把握」「言語の標準化に関する研究」——を活動の柱にしています。

例えば、隣国の韓国には、「国語及び国民の言語生活に関する科学的調査研究を通じて、国語合理化の基礎を築くとともに、国民の文化生活的向上に貢献する」ことを目的として設立された「国立国語研究院」（1991年設立）という研究所があります。国立国語研究院では、このような設立目的ののっとり、『標準国語大辞典』の編纂や、ことばの実態調査及びことばの標準化に関する調査・研究が行われています。特に、『標準国語大辞典』の編纂は、国立国語研究院の代表的な事業で、ハングル綴字法や標準語規定を辞典という形で具体化したものです。

韓国は、日本と同様、民族や言語の多様性の度合いが高くない国であり、国立国語研究院の設立目的も日本の国立国語研究所とほぼ同じになっています。ただ、日本と異なるところは、「国語醇化」（漢語や外来語の排除）と「ハングル専用」（漢字の排除）ということが大きな流れとしてあるということです。このことを反映して、国立国語研究院でも、語彙や表記をどのように整理していくのがよいかという問題意識のもと、数多くの言語の実態調査が行われています。

もう一つの隣国である中国には「中国社会科学院・語言研究所」（1950年設立）、「語言文字応用研究所」

（1984年設立）という二つの研究所があります。現在では、語言研究所はアカデミックな言語研究、語言文字応用研究所は応用言語学的な観点からの言語政策に関する調査・立案（例えば「全国言語文字使用状況調査」の実施）という役割分担がなされていますが、語言研究所の設立当初の任務は、中国語の標準化の推進——標準語（中国語では「普通話」）の普及と文字改革（簡体字化）——にありました。設立が中華人民共和国建国（1949年）の翌年であることから、多くの民族を抱え、同じ漢民族でも方言間の差異が著しい（例えば北京語と広東語は別の言語と考えてもよいほど異なる）中国にあって、言語の標準化が新国家建設における最重要事項の一つとして認識されていたことがわかります。また、語言文字応用研究所の設立も、改革開放と近代化によって社会が大きく変化し、それにともない新語・外来語の増加、専門用語や文字の標準化といった新たな問題が生じてきたことがその背景にあります。

中国は広大な面積を有する国です。それだけに、社会の変化の速度も地域によって異なり、経済面のみならず、語彙の面でも地域間の格差が大きくなっています。その意味では、国内における言語的異質性の問題は、日本よりもはるかに深刻な問題だといえます。

ここでは、韓国と中国の言語研究所を紹介しましたが、世界各国の言語事情は様々です。インドやインドネシアのように、民族や言語の多様性の度合いが高い国では、そもそも何語を公用語あるいは共通語とすることから問題になります。また、移民が多いアメリカやオーストラリアでは、多くの文化や言語をいかにうまく共存させるかが重要な問題になります。

世界各国の言語事情、及び各国の言語研究所の役割については、次の文献を御覧下さい。（韓国・中国の研究所に関する詳しい紹介もあります。）

- ・第1回国立国語研究所国際シンポジウム報告書『世界の国語研究所—言語問題の多様性をめぐって—』（1996年）
- ・「世界の言語研究所（1）～（8）」国立国語研究所編『日本語科学』第1～8号（1997～2000年）

（井上 優）

ことばQ&A

Q質問:「ヤマダハルオ」のローマ字表記は、「Haruo Yamada」がよいのでしょうか。「Yamada Haruo」がよいのでしょうか。

A回答:ローマ字表記での姓名の順は、今まで「姓一名」と「名一姓」の両方が使われてきました。例えば、パスポートでは「姓一名」(全部大文字)の順です。諸外国の日本文学研究で「夏目漱石」といった文学者名を引用する場合、「Natsume Soseki」のように「姓一名」の順が一般的です。一方、ビジネスの世界で使われる名刺では、「名一姓」の順を使う人が多いようです。また、データベースなどで氏名をソート(五十音順などに並び替えること)するとき、ローマ字表記を振ったりすることがありますが、このようなときは、「姓一名」だったり「名一姓」だったりします。

名刺やパスポートは、相手に理解してもらうためのコミュニケーションの道具です。このようなものに氏名をローマ字表記するのは、主として日本人を想定したものではありません。ですから、ローマ字表記での「姓一名」の順の問題は、「姓一名」の表し方についての相手の文化や社会の事情などに配慮する必要があります。欧米などのように自分の氏名を「名一姓」の順で

表すことが一般的な国もあれば、韓国や中国などのように「姓一名」の順の国もあります。また、これまで多くの日本人がローマ字表記で「名一姓」を使ってきたという慣習がありますので、この慣習を理解してきた相手への配慮も必要です。

このような状況を踏まえて、第22期国語審議会では、ローマ字表記での姓名の順の問題を取り上げました。「国際社会に対応する日本語の在り方(案)」(2000年12月)では、言語や文化の多様性を人類全体が意識し、生かしていくべきであるという立場から、一般的には各々の人名固有の形式が生きる形で紹介・記述されることが望ましいと述べられています。そして、日本人のローマ字による姓名の表し方は、「姓一名」の順(例えば Yamada Haruo)とすることが望ましいとしています。ただし、これまでの慣習を急に変えることで相手が誤解する恐れがある場合は、姓をすべて大文字とする(YAMADA Haruo)、姓と名の間にコンマを打つ(Yamada,Haruo)などの方法で、「姓一名」の構造を示すといった配慮が必要であるとしています。

(柳澤好昭)

INFO情報ION

開催記録

- 第8回国語研究所国際シンポジウム専門部会
「日本語とアジア諸言語との作文対訳コーパス:対照言語学・日本語教育への応用」
・国立国語研究所 講堂
・2000年12月14日(木) 10:00~17:50, 12月15日(金) 10:00~17:30
- 平成12年度国立国語研究所公開研究発表会
「情報資料研究部における研究業務の現状と将来構想」
・国立国語研究所 講堂
・2000年12月20日(水) 13:30~17:20
- 東京都板橋区立志村第一中学校国立国語研究所見学
・2001年2月7日(水) 13:00~15:00
- 第8回国語研究所国際シンポジウム専門部会
「多言語環境下での年少者日本語教育を考える」
・国立国語研究所 講堂
・2001年2月17日(土) 10:00~17:40
- 「話し言葉の科学と工学ワークショップ」(文部科学省科学技術振興調整費開放的融合研究推進制度)
・東京工業大学 百年記念館 フェライト会議室
・2001年2月28日(水) 10:00~16:40, 3月1日(木) 9:30~16:45

独立行政法人国立国語研究所の出発

国立国語研究所は、2001年4月から、文部科学省の外局である文化庁の所轄機関から、独立行政法人国立国語研究所に移行しました。

1948年12月に、国語及び国民の言語生活に関する科学的な調査研究を行い、あわせて国語の合理化の確実な基礎を築くための事業を行う機関として設置され、今日まで半世紀余り、着実に任務を遂行してきました。所内外との共同研究や大規模な調査研究を展開して各種の研究成果を公表するとともに、これらに基づき国の国語施策の策定に寄与してきたと自負しています。

独立行政法人に移行したのちは、これまで以上に、国民の皆さんとの接点を求めながら、業務の効率化や情報公開等に積極的に取り組んでいきます。

独立行政法人国立国語研究所は、国語及び国民の言語生活に関する研究を行う機関として、また、外国人のための日本語教育の振興を図る機関として、期待に応えられるよう、新しい歩みを始めました。

独立行政法人国立国語研究所の3部門

【研究開発部門】

研究開発部門においては、国語及び国民の言語生活に関する科学的な調査及び研究並びにこれに基づく資料の作成及び公表を行う。

【日本語教育部門】

日本語教育部門においては、外国人に対する日本語教育に関する科学的な調査及び研究並びにこれに基づく資料の作成及び公表、外国人に対する日本語教育における教材、教具の開発に関する調査、研究、提供、及び外国人に対する日本語教育に従事する者及び従事しようとする者に対する研修を行う。

【情報資料部門】

情報資料部門においては、国語及び国民の言語生活に関する情報及び資料並びに外国人に対する日本語教育に関する情報及び資料に関する科学的な調査及び研究を行い、これに基づく情報、資料を収集し、整理し、及び提供、公表する。

INFC情報ION

新刊書目

- 日本語と外国語との対照研究 VIII『マイペンライ (2) —タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その2—』
国立国語研究所編／2000年10月／くろしお出版／A5判／4,800円（税別）
- 第7回国立国語研究所国際シンポジウム 第6専門部会 報告書『認識のモダリティとその周辺—日本語・英語・中国語の場合—』
国立国語研究所編／2000年12月／凡人社／B5判／1,600円（税別）
- 国立国語研究所言語処理データ集8『テレビ放送の語彙調査 [語彙表] CD-ROM版 付／中学校・高校教科書の語彙調査 [語彙表]』
国立国語研究所編／2001年2月／大日本図書／CD-ROM1枚／2,500円（税別）／書店では取り扱いがない。購入の場合は振替用紙にて／連絡先：大日本図書書籍部 Tel:03-3561-8679, 振替：00190-2-219
- 日本語と外国語との対照研究 IX『日本語とフランス語 —音声と非言語行動—』
国立国語研究所編／2001年3月／くろしお出版／A5判／3,800円（税別）

ことばフォーラム案内

●平成13年度 第1回「ことば」フォーラムのご案内

日時：平成13年5月12日(土)

午後2時から4時まで

場所：国立国語研究所5階講堂

「ことば」って何だろう？(仮題)

「ことば」は身近なものですが、「ことば」とは何かと聞かれて、すぐに答えるのは簡単ではないと思います。また、私たちは「ことば」をどのように使いこなせばよいのか、迷うこともしばしばあるでしょう。

今回のフォーラムは、国立国語研究所が編集・刊行している「新「ことば」シリーズ」をもとに、「ことば」とは何か、「ことば」をどう使い分ければよいのか、などについて、日本語研究の最前線の話題なども取り込みながら、研究員がわかりやすく、また親しみやすい解説を行います。

「新「ことば」シリーズ」は解説編と問答編の2分冊になっています。新「ことば」シリーズ11(解説編)「豊かな言語生活のために」では、「ことば」と私たちの生活との関わりについて、いろいろな側面から解説を行っています。また、同12(問答編)「言葉に関する問

答集—言葉の使い分け—」では、「ことば」の使い分けについての質問について解説しています。

中学生以上の方なら、どなたにでも理解していただけるように準備しておりますので、どうぞご参加ください。

●「ことば」フォーラムの今後の予定

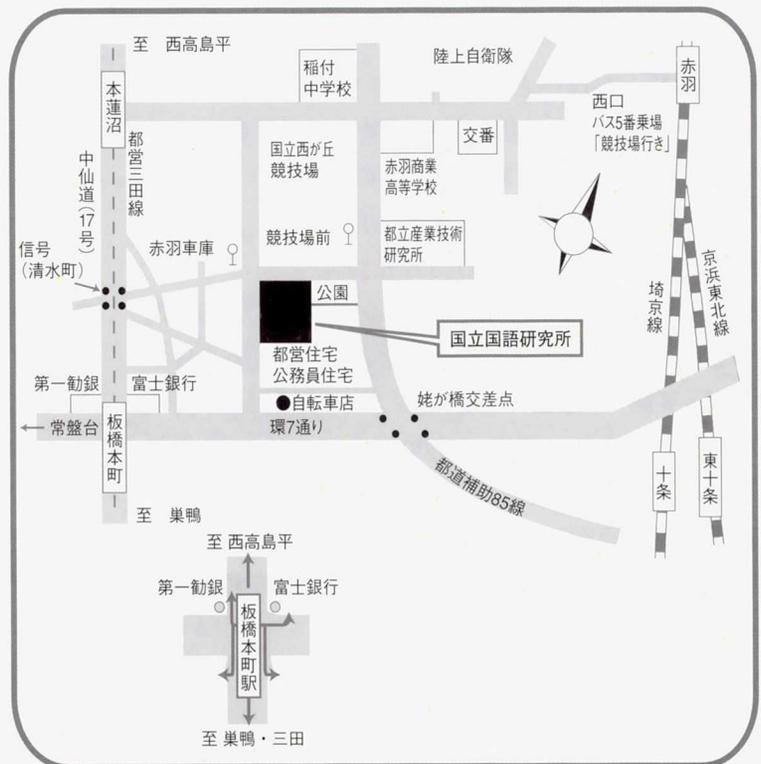
今年から東京以外の会場でも開催できるよう準備を進めています。例えば、「授業に活かす地域のことば：方言と授業作り」といったテーマで企画を練っている段階です。さらに、産業界・官界への研究成果の還元という立場から、企業や官庁に勤務している方々を対象にした日本語データベースに関するセミナー形式のフォーラムも10月中旬に東京国際フォーラムで開く予定です。

「ことば」フォーラムは毎年5回の開催予定です。どうぞご期待ください。

「ことば」フォーラムに関する問い合わせ先

国立国語研究所庶務課庶務係 TEL03-5993-7603

案内図



交通機関

- ◆都営三田線「板橋本町駅」下車徒歩10分
- ◆JR 埼京線「十条駅」下車徒歩20分
- ◆JR赤羽駅(西口)より国際興業バス
西が丘競技場(赤羽車庫)行(バス停5番)
で終点「赤羽車庫」下車1分